

【第1回定例会報告書】

日時：平成30年03月31日（土） 15：00～17：45

場所：調査士会館3階会議室

担当：佐瀬副代表、宇津木幹事

参加者：16名

《実施内容》

3月の定例会は、トリンブルから2名、トリンブルパートナーから2名の4名の全面的な協力を得て行われました。東京会からも、品川支部長の畔田さんも参加して下さいました。

- ① 前座として「調査士とGPS」をテーマに報告と説明。
 - ・GPSとはどんなものか、調査士にとってどんなものが必要なのか、いつ使うのか等の観点から、実体験を踏まえて報告をしました。
 - 調査士には、金銭面や一人で観測できる点からVRS方式が良いでしょう。

- ② トリンブルによるGNSS測量について、網羅的な座学が行われました。
 - ・GPS、GLONASS、Galileo、BeiDou（中国）、QZSS（日本）の内容
 - ・従来の衛星軌道とQZSSの衛星軌道の差（上空の衛星の見え方）
 - ・搬送波の解析による距離測定の仕事
 - ・測位方式（測り方）についての種類
 - ・VRSによる基準点観測の方法
 - ・地籍調査等でもVRSを利用した規定が順次追加されている旨の解説

上記の内容が記載されたレジュメが配布され、トリンブルさんも気合いをいれて講習を行って下さいました。

③ 調査士会館外で、VRSを使った測設の実地研修

- ・ 1 mピッチの測設を行い、精度を確認
- ・ 会館前の4級基準点を測設。

⇒ 1 cm程度の誤差で埋設された金属標を確認出来た。

[測設]



[基準点確認]



※2009年のデータの為、測地成果2011に変換したデータを使用しました。



④ VRSを使用した3級基準点測量の実地研修

【街区基準点】

・会館近くの街区基準点を使用し、既知点を新点として観測し、その誤差を確かめる
⇒2班に分かれて、トリンプルの方から観測の仕方の解説を受けながら実習。
天空が開いた与点も手伝って、ミリの精度で検証出来ました。



⑤ まとめ

準天頂衛星によって常に真上と南西に2機の衛星が位置する為、配置の状況がよくなったのか、従前より少し精度が向上している感触です。

また、ビル群でも天頂が開いていれば、ほとんどの場所で測位出来るようになるため、活躍の場が広がって行くことが予想されます。